

学校番号 33 学校名 千葉県立船橋法典高等学校 課程名 全日制の課程

領域	自己評価の結果 (達成状況・結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学 校 経 営	<p>① 平成18年度から継続していた「自己啓発指導重点校」の指定が本年度で終了することが通知されたが、将来検討委員会における昨年度来の検討の成果として、平成28年度から3年間の基本方針を決定することができた。</p> <p>② ホームページについて、昨年度よりも頻繁に更新し、情報発信に努めた結果、学校評価アンケートにおいて、「入学前に本校の特色を知っていた」生徒 60.9⇒61.2%、保護者 56.7⇒60.9%と向上したが、依然4割の生徒・保護者が本校の特色を知らずに入学している。入学後には、「本校に入学して良かったと思う」生徒 76.7⇒76.5%、保護者 91.7⇒91.6%とほぼ横ばいであった。</p> <p>③ 災害時等の学校情報について、携帯電話からのアクセス及びメールの一斉配信システムを整備できた。</p> <p>④ 若手モラルアップ委員会を活用し、授業研究、不祥事防止研修に取り組ませた。また、将来検討委員に各年代の職員を充てることで、世代間コミュニケーションの契機とすることができた。</p> <p>⑤ 広報活動について、新たに学校案内のポスターを制作して関係中学校に配布した。また、学校案内パンフレットは本年もさらに見やすく、特徴を分かりやすく刷新し、印刷部数を大幅に増やして各説明会等で配布した。 「一校1キラッ！」マップの漫画仕立てを継続し、中学生から「分かりやすい」との評価を得た。 中学校訪問は2回実施し、広報に努めるとともに、本校の外部からの評価を探り、学校改善の資料とすることができた。</p> <p>⑥ 本校を紹介する映像資料(ビデオ)の更新に加え、画像資料(パワーポイント)を新たに作成した。中学校での説明会の他、開かれた学校づくり委員会・ミニ集会においても用いて大変好評であった。</p>	<p>① (1)多クラス展開による少人数制(2)学年室制によるきめ細かな生徒指導(3)朝自習による基礎学力の向上及び学習習慣の確立の3点について、全職員の合意として継続して取り組む。</p> <p>② ホームページは、係を中心とした取材・編集・アップが行われているので、より多くの分掌等を巻き込み、有益で魅力的な情報を掲載できるようにする。 個人情報の保護については、生徒及び保護者の承諾を取り付ける仕組みを整えた。 昨年度構築した携帯電話等から学校の情報が閲覧できるシステムが有効に機能したので、今後さらに活用する。</p> <p>③ メールの一斉配信について、登録者数をより多くするため、普段の学校情報の提供等も工夫して行う。</p> <p>④ 若手モラルアップ委員会の活動は自発的になってきているものの、個人的な活動が中心となっている。若手が協働する取組を検討したい。</p> <p>⑤ 本校への中学生の関心は高く、中学生にとって「とりあえず行ってみる」学校から「志望校として考える」学校になっている。このことは、本年度1年生の授業に取り組む姿勢や各種アンケート結果を見て、質の変容が見られることでも分かる。 今後は、これまでとは異質な本校教育活動への生徒・保護者の期待に応える授業づくり、生徒指導、進路指導に取り組む。</p> <p>⑥ 広報委員会での学校案内や「一校1キラッ！」マップ作成等の成果を踏まえ、学校ポスターや学校紹介資料(映像・画像)の更新を積極的に行う。</p>

<p>⑦ 「開かれた学校づくり委員会」を梃子に、地域との交流が大幅に拡大した。 吹奏楽部が地域の夏祭りで演奏したり、美術部が近隣にある特別養護老人施設に展示スペースをいただいて作品を展示したり、PTAが青少年問題連絡協議会の活動に参加することができた。 防災に関する地域連携についても突っ込んだ話し合いをすることができたが、合同防災訓練等の実施には至らなかった。</p> <p>⑧ 生徒一人一人を大切にした指導等、学年室を中心とした体制が十分機能している。 学校評価アンケートで保護者は、 「一人一人を大切にした指導がされている」 80.8% ⇒ 83.4% 「適切な生徒指導が行われている」 88.7% ⇒ 91.3% 「生徒の相談に親身になって応じている」 82.1% ⇒ 84.0% と回答している。 学期皆勤生徒が、 1学期 311名 ⇒ 369名 2学期 279名 ⇒ 279名となっている。</p> <p>⑨ 各学年、生徒指導部の自己評価によると、生徒指導は、概ね成果が現れている。 アンケート結果によると生徒は、 「ルールを守って学校生活を行っている」 88.7% ⇒ 90.6% と考えている。</p> <p>⑩ 毎週金曜日5限に、教育相談委員会を開催し、多種多様な課題や問題を抱えている生徒たちについて、きめ細かな情報交換を行っている。</p> <p>⑪ PTA活動 学校の変容に伴ってPTA活動も活性化している。昨年度設置した「本部役員会」が、普通教室への冷房装置の設置について検討・提案し、平成28年度に導入されることになった。 また、PTA研修会への参加、体育祭の参観者、地元自治会との交流等への参加者が増えるなど、子どもの教育に高い関心を有する保護者が増えてきた。</p>	<p>⑦ 近隣自治会からの要望もあり、各種の活動にはできるだけ協力しながら、生徒の発表の場としての交流活動を定着させる。 合同防災訓練や地域内の危険箇所、危険施設などについて一緒に考えるなどの連携を深めていきたい。</p> <p>⑧ 学年室を核に学校全体として、生徒理解がさらに深め、個に応じた指導・支援をより一層充実させる。 インクルーシブ教育システムを念頭に置きながら、本校での特別支援教育的取組をさらに充実させる。 インクルーシブ教育システムに関する職員研修を充実させる。</p> <p>⑨ 生徒の自己有用感を高めることに力点をおいた生徒指導「積極的生徒指導」を推進する。 平成28年度以降を見据える将来計画の中に具体化していく。</p> <p>⑩ 学校改善が進む中、基本的生活習慣が改善しない生徒や発達障害的課題を抱える生徒がいることを踏まえ、個別指導や家庭との連携をさらに強化していく。</p> <p>⑪ これらを踏まえ、各委員会とも、現行の活動を再検討し、より積極的に活動し、多くの会員が参加できるPTAを実現する。</p>
---	--

<p>学 習 活 動</p>	<p>① 生徒による授業評価アンケートの結果 「授業にきちんと取り組んでいる」 生徒 82.8%⇒82.1% 保護者 83.3%⇒85.2% 職員 83.6%⇒95.5% 「先生は授業の工夫をしている」 生徒 71.8%⇒72.3% 保護者 81.4%⇒80.4% 職員 90.9%⇒88.8% 「生徒は授業内容を理解している」 生徒 74.1%⇒73.5% 保護者 75.2%⇒79.2% 職員 50.9%⇒75.6% 「学力は向上している」 生徒 57.9%⇒61.1% 保護者 64.5%⇒69.4% 職員 69.1%⇒73.3% 全体に職員と生徒の認識が同期していない感がある。</p> <p>② 学年ごとの年間計画に従って行われた朝自習が、生徒の自律的な学習の契機となり、一定の達成感を持たせることが出来た。 1 学年 マナトレ、漢字検定 2 学年 一般常識養成講座、漢字検定 語彙・読解力検定 3 学年 語彙・読解力検定 全校受検 実用英語技能検定 全学年希望者 数学検定</p> <p>③ 「職員間授業公開週間」を5月、9月に実施した。相互授業参観や意見交換による授業の改善と向上の機会としている。 外部への授業公開は、以下の日程で実施した。 「開かれた学校づくり委員会」6月12日 「保護者面談週間」 6月、11月 「授業練磨の公開日」 11月14日</p> <p>④ 学習意欲を持つ生徒に対して、補習等の指導を精力的に行い、公募推薦で江戸川大学、神田外語大学、駒澤大学、AO入試で淑徳大学、千葉商科大学に合格するなど、これまでにない結果を出すことが出来た。</p> <p>⑤ 道徳教育は1学年を中心に道徳教育を実施している。読み物教材、映像教材のほか道徳教育推進教諭が中心となって作成する独自教材も用いながら実施している。</p> <p>⑥ 人権同和教育推進委員会の企画により、12月18日に人権教育講演会を行い、やや難解な内容であったが、生徒は静聴していた。</p>	<p>① 言語活動を通じた学びやアクティブラーニングに関する職員の授業力向上につながる研修機会の設定に努める。 教員は、生徒の目線からの授業目標の設定や授業法、評価の在り方について、教科全体や学校全体で検討する。</p> <p>② 朝自習を、学年毎に目標を持って継続して行い、学習意欲全般の高揚に努める。 学校の変容に伴う生徒の変容に対応する学習指導の在り方を検討し、改革する。</p> <p>③ 職員間の授業公開週間は、多忙な時期を回避するよう時期を検討する。 保護者授業参観週間中に授業参観に来校した保護者が増えていることもあり、来年度も継続して行う。</p> <p>④ 生徒・保護者の本校への期待を的確に把握し、それに応えるシステムを構築する。</p> <p>⑤ 実践から得たデータを分析するとともに、読み物及びDVD教材を利用した、本校生徒の自己啓発の向上を目指した授業展開となるよう計画を進める。</p> <p>⑥ 人権を生徒に分かりやすく丁寧に学習させる企画を実施する。</p>
----------------------------	---	---

<p>生徒指導</p>	<p>① 生徒理解のための工夫・取組の状況 各学年フロアに学年室（学年職員室）を設け、日常的で、身近な見守りを行い、問題等の早期発見・早期対応・早期解決を図ることができた。 また、週1回の教育相談委員会では、特に軽度発達障害の疑いのある生徒への対応のしかたについて情報交換及び早期対応ができた。 課題や悩みを抱える生徒に対しては、放課後に個人面談等の丁寧な対応ができた。経済的な困窮家庭や保護者が精神的に不安定な生徒もおり、そうした保護者からの相談応ずることもできた。</p> <p>② 全体に遅刻・欠席生徒数は減少傾向にある。早期対応などが奏功し、1年生の2学期に改善する例が多く見られる。</p> <p>③ 年3回の一斉指導や学年ごとの根気強い丁寧な指導により、生徒指導面において大きな改善が見られている。</p> <p>④ 地域からの意見 1)通学時の自転車の乗り方に関して 2)法典の生徒の活躍ぶりを地元さらに広報すべきである 3)地元の催事に生徒を参加させてほしい</p>	<p>① 担任、学年の個別対応と、教育相談委員会の組織的対応によって支援する体制の整備を一層進める。 情報の適正な共有化について検討し、本委員会の機能を十分に活用する体制を構築する。</p> <p>② 遅刻常習者や指導を要する生徒の固定化に対応する方策を検討・実施する。</p> <p>③ 小さなことを見逃さない指導をする。</p> <p>④ 地域に見守っていただくため、地域や周辺施設等との交流活動を継続する。</p>
<p>キャリア教育</p>	<p>① 生徒の発達段階に応じたキャリア教育を計画的に実施した。 1年：進路全般説明会（1回） 分野別進路ガイダンス（1回：外部） 上級学校見学会（1回：外部） 2年：進路全般説明会（1回） 卒業生講話（1回） 分野別進路ガイダンス（1回：外部） インターンシップの実施（7名） 3年：進路全般説明会（1回） 大学・短大説明会（3回） 専門学校説明会（3回） 就職説明会（5回） 進学推薦面接指導（複数回） 就職面接指導（複数回） 分野別進路ガイダンス（1回：外部） 集団面接指導（1回：外部）</p> <p>② 生徒及び保護者に対して積極的に進路情報の提供ができた。 ・「進路の手引き」「進路ニュース」発行 ・保護者向け進路講演会</p> <p>③ 学校評価アンケート 「生徒の相談に親身に応じている」 生徒 68.8%⇒72.4% 保護者 82.1%⇒84.0% 職員 94.5%⇒93.3%</p>	<p>① 進路指導部及び学年の組織的な指導を継続する。</p> <p>② 変わってきた生徒たちの多様な進路希望を実現させるため、指導体制をさらに組織化して取り組んでいく。</p> <p>③ 生徒と職員の認識の隔たりを縮小するため、生徒の学校への期待をより詳細に把握する進路志望調査を実施する。</p>

	<p>「進路情報が十分提供されている」  生徒 70.1%⇒78.0%  保護者 86.2%⇒88.3%  職員 81.8%⇒93.3%</p> <p>④ ガイダンス機能を充実するための工夫・取組の状況  1) 2年生向けに卒業生講話を行ったり、1年生向け進路ガイダンスのパネラーに卒業生を起用したりするなどの取組を行い、大変好評であった。  2) 定期的な面談週間を設け、生徒及び保護者との面談の時間を確保している。  生徒個人面談週間（4月， 9月）  保護者面談週間（6月， 11月）</p> <p>⑤ 高校生就職支援事業を受け、6月に企業訪問を実施した。  2月末の就職内定率は100%（内学校斡旋73.3%）となり、生徒一人一人に応じた粘り強い指導が実を結んでいる。</p> <p>⑥ LHRの時間や総合的な学習の時間を利用して、適性検査、進路説明会、求人票の見方、履歴書の書き方、敬語の使い方、面接の受け方等実用的な進路学習を展開した。  進路決定状況：大学・短大 55⇒64名  専門学校等 70⇒75名  就職 66⇒86名  未定 31⇒6名  進路決定率：86.0⇒97.4%</p> <p>⑦ 漢字検定、数学検定、英語検定、語彙・読解力検定等多くの検定試験に挑戦した。</p>	<p>④ 生徒にとってより身近で、具体的な場面を想定したガイダンスとなるように、進路指導部と当該学年との連携・情報共有を一層充実させる。</p> <p>⑤ 就職活動の長期化にともない、担当職員の負担が増加していることから、校内の役割分担を検討する。  外部機関との連携も検討する。</p> <p>⑥ 進路決定率を向上させている要因を把握するとともに、進路指導部及び学年の指導の連携をさらに充実させる。</p> <p>⑦ 将来のキャリア形成に向け、漢字検定、英語検定等は継続して挑戦させる。</p>
<p>特別活動</p>	<p>① 校外学習をはじめとする体験学習を通して、生徒は新たな知見を得るだけでなく、友人等とのコミュニケーションの取り方も学んでいる。  沖縄への修学旅行は、民泊、平和学習をとおして貴重な体験をすることができた。  「家庭科」授業における2年の保育園での保育実習、車いす体験等、コミュニケーション能力の向上に大変有効であった。</p> <p>② 全校及び学年毎に、通学路を中心に近隣の清掃活動を行っており、地域の評判も良い。</p> <p>③ 4月末時点での部活動の加入率は、53.5%⇒57.1%⇒57.0%と安定している。  多くの生徒が放課後、休業日にそれぞれの部活動の活動場所できいき活動している姿が清々しい。</p>	<p>① 校外学習についての見直しを行い、これまでの体験学習も視野に置きながら、進路希望の多様化に応える自己啓発活動を推進していく内容を検討する。</p> <p>② 様々な場面で地域に貢献する活動に参加する。</p> <p>③ 活発になった部活動を統轄する組織として顧問間の連絡調整を図るため、部活動指導委員会の組織を整備する。</p>